

Slovenia Monthly June 2017

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2017年7月5日



～6月の主なポイント～

- 政治：** 常設仲裁裁判所は、スロベニア・クロアチア国境画定にかかる最終裁定を発表。
6月25日の独立宣言を記念した「国家の日」式典をリュブリャナ市にて開催。
ブルドー・ブリウニ・プロセス首脳会合が開催され、政治的安定、融和促進等の強化を合意。
マリボル空港ロジスティクス・センター設置に関しロシアと合意。
- 経済：** S&P社、堅調なGDP成長率を背景にスロベニア国債格付を引上げ。
コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設経費、国民投票実施へ。
- 社会：** カヤック女子、団体戦で金メダル獲得。
自転車のシュピラク選手、ツール・ド・スイス優勝。

政治

【内政】

●移民統合事務所、運営開始【3日】

3日、新たに設置された移民統合事務所 (Office for Migrants and Integration) は、主に難民及び移民の住居及び統合の手続処理をするためのオペレーション事務所として運営を開始した。

●「新エネルギーコンセプト」草案発表【7日】

7日、インフラ省は、スロベニアにおける電力インフラ開発の基礎となる「新エネルギーコンセプト」の草案を発表した。同草案では、2020年迄に温暖化ガスの排出量13%、2030年迄に30%の削減目標が設定された。電力消費に占める再生可能エネルギーの比率は、2020年迄に25%の達成を目指す。また、将来的なエネルギー・ミックスにつき2つのシナリオを提示。1つ目は再生可能エネルギーの導入強化で、2つ目は、2030年まで石炭火力発電を微増、2050年までにクルシュコ原発第二号機の建設を行い、その後石炭火力発電を完全に廃止するというものである。インフラ省は、本年末までに国民議会による同コンセプトの採択を目指すとしている。

●パホル大統領、無所属として出馬表明【19日】

19日、パホル大統領は、当地週刊紙「Reporter」のインタビューにて、次期大統領選挙に無所属として立候補する旨表明した。前回の選挙では、パホル大統領は社会民主党(SD)の公認候補として当選しているため、今回の立候補についてはSD幹部と協議済みであると説明した。

●「国家の日」式典の開催【24日】



(写真: Tamino Petelinšek / STA)

24日、独立宣言を記念した日の前夜に、コングレス広場にて「国家の日」の式典が開催された。同式典において、パホル大統領は、「スロベニアは、国益、欧州における共通の目標、及び欧米パートナーシップのために、あらゆる課題をも克服する力がある」とした上で、「スロベニアはEU加盟によって、より自由

で、安全で、ユニークであり、より多くの成功を収めている」と述べた。ツェラル首相は、「我が国が独立を成し遂げられたのは、スロベニア人が危機的な時期に統一できたからである」と述べ、この26年間の実績を記憶にとどめるよう国民に呼びかけた。

【外政】

●オーストリアのケルンテン州新憲法、スロベニア系少数民族に言及【1日】

1日、スロベニア系少数民族につき言及されているオーストリアのケルンテン州の新憲法が承認されたことを受け、スロベニア外務省は、同憲法が今後同州の教育等において、スロベニア系の言語の権利が完全に保障されることに繋がることを期待すると述べ賞賛した。同憲法第5条には、ドイツ語がケルンテン州の公用語である一方、ケルンテン州は、同州のスロベニア系少数民族による言語及び文化の多様性を認識する(recognize)旨記載されている。

●ブルドー・ブリウニ・プロセス首脳会合開催【3日】

3日、南東欧地域の国家元首によるブルドー・ブリウニ・プロセス首脳会合がスロベニアにおいて開催され、スロベニア、クロアチア及びゲスト国であるドイツの大統領は、昨今の南東欧情勢の悪化及び治安を脅かす過激なレトリックは、EU全体に影響を与えるものとして、EU及び同加盟国に対し、南東欧地域を最重要の政治アジェンダとして引き戻すよう促した。

同会合にて採択された宣言では、南東欧諸国首脳は、政治的安定、融和促進及び問題の平和的解決に向けた努力を強化することで合意しつつも、新規加盟候補国に対するEUのドアは引き続き開かれたものであるべき、との考えを強調した。

●フィンランド国会議長のスロベニア訪問【5日】

5日、スロベニアを公式訪問したロヘラ・フィンランド国会議長は、ブルグレス国会議長と会談し、米国のパリ合意からの離脱及びEUの将来等の国際情勢を中心に意見交換を行った。両者は、米国の合意離脱を受け、両国は一層環境保護に向けた努力を強化していく必要があるとの認識で一致した。また、国会間での協力強化を通じた二国関係強化についても協議した。ブルグレス議長は、ロヘラ議長の訪問は、模範的且つ友好的な両国の関係の証左であるとして、フィンランドの建国100周年に祝意を表明した。ロヘラ議長は、2015年にフィンランドのキッチン用品メーカー「Fiskars社」に買収されたガラス製品メーカー「Steklarna Rogaska」社を訪問した。

●国境における審査体制の変更【8日、27日】

8日、スロベニア内務省及び警察は、シェンゲン圏国境における審査強化のもと、主要なスロベニア・クロアチア間の国境の一つであるオブレジエ国境で大規模な渋滞が発生していた状況の改善のため、クロアチアが提案する国境審査簡素化に同意した。

27日よりクロアチアによるシェンゲン情報システム(SIS)のデータベース使用が可能となり、これまで双方向の入国において、スロベニア及びクロアチア両国による2重審査が実施されていたのを、それぞれ一か所における審査の実施を開始した。

●ガシュペルシッチ・インフラ相の訪中【12日】

12日、ガシュペルシッチ(Peter Gašperšič)インフラ大臣は、中国を訪問し、Li Guandong寧波市副市長と会談し、スロベニアのコペル港と寧波港との間の協力関係の強化につき協議した。また、同大臣は、中国・欧州経済協力機構(CEEC)貿易投資エキスポ(China-CEEC Investment and Trade Expo)に出席、李小鵬・中国交通運輸部部長と会談し、二国間協力及び「一帯一路」イニシアティブにつき協議した。さらに、Feng Zhenglin中国民用航空局長と面談し、中国スロベニア間の航空路の改善及び小型飛行機の生産拡大につき協議した。

●コール・ドイツ元首相に敬意を表明【16日】

16日、コール・ドイツ元首相の死去を受け、パホル大統領は、自身のツイッターにて、「偉大なる指導者であり、スロベニアの友人であったヘルムート・コール氏の逝去の知らせを受け、悲しみに満ちている」と述べた。スロベニア外務省は、「コール元首相は、EU構築のために重要な役割を果たし、1991年には、スロベニアの独立を支持し、スロベニアが国際社会に承認されるよう尽力された」とし、哀悼の意を表した。2005年、これらの功績を受けて、コール元首相は、スロベニアにおいて国家勲章を受賞している。

●インフラ、経済両大臣、カザフスタン訪問【16日】

16日、ガシュペルシッチ・インフラ大臣及びポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、3日間のカザフスタンへの訪問を終えて帰国した。両大臣は、2017アスタナ国際博覧会やアスタナ経済フォーラムに出席した他、カザフスタンの関係大臣らと面談し、再生可能エネルギー資源の開発促進、スパ観光開発、鉄道インフラ、両国の物流ハブとしての役割等について協議した。また、ポチヴァルシェク大臣は、スロベ

ニア企業Duolが建設中のカザフスタン・サッカー協会サッカー場を訪問した。なお、2016年の二国間の貿易額は、約1億ユーロ、2015年のスロベニアの対カザフスタン投資額は570万ユーロ。

●マリボル空港ロジ・センター設置合意【19日】

19日、ポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、マリボルにおいてニキフォロフ・ロシア通信メディア大臣と会談し、マリボル空港において国際小包用のロジスティクス・センターを設置するためのロシア郵便とスロベニア郵便の合併企業を設立し、欧州市場への参入を目指していくことで合意した。ニキフォロフ大臣は、「ロシア郵便は貨物機を所有しており、マリボル空港は、スロベニア及びその周辺国の市場向けのロジスティクス・センターになるであろう」と述べた。ポチヴァルシェク大臣は、「我々はEU市場向けのデジタル化された物流センターを開発することが出来る。スロベニア郵便は、プロジェクト実現のためのノウハウ、経験及び技術力を有している」と述べた。

●パホル大統領、セルビア大統領と会談【23日】

23日、セルビア大統領就任式典出席のため、セルビアを訪問中のパホル大統領は、ブチッチ大統領と会談した。両者は、西バルカン地域の問題は、相互理解及び協力を通じ、平和的に解決されるべきであるとの立場で合意し、パホル大統領は、スロベニアは地域諸国、特にセルビアとの間で平和的且つ成功裡に協力を進めていきたいと述べた。また、両者は、EUの将来についても議論を行い、パホル大統領は、セルビアによるEU加盟に向けた努力を支持するとの立場を確認した。



(写真: Daniel Novakovič /STA)

●スロベニア・クロアチア国境画定問題: 常設仲裁裁判所(PCJA)による最終裁定の発表【29日】

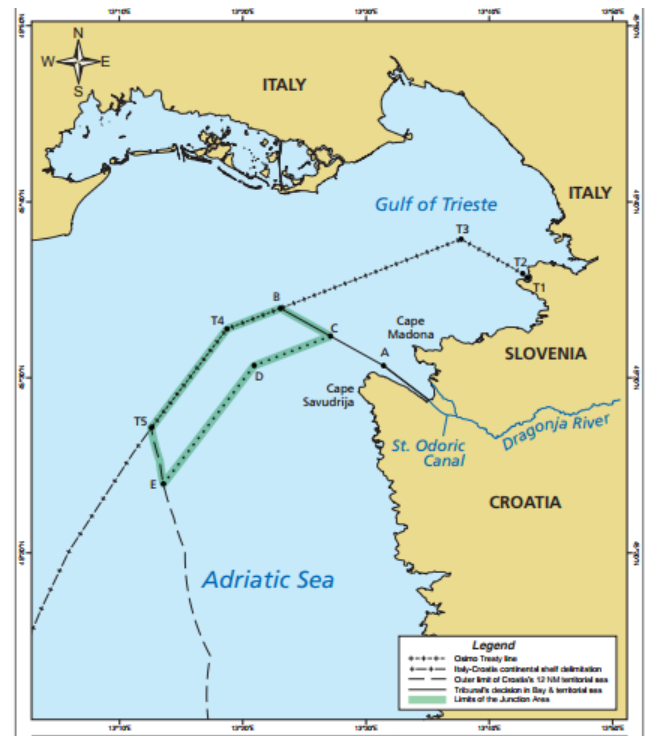


(写真: Nebojša Tedić /STA)

29日、ハーグにて、スロベニア・クロアチア国境画定問題に関する常設仲裁裁判所(PCJA)は最終裁定を発表した。国境の裁定結果は以下のとおり。

＜海洋境界＞

- ①ピラン湾内のスロベニア・クロアチア間の海洋境界線を、ドラゴニャ川(Dragonja)の河口を基点とし、イタリア海域に接する北緯45° 30'41,7"の地点までを境界線と制定。これにより、ピラン湾の約75%がスロベニアの領海と定められた。
- ②クロアチア領海の一体性を尊重しつつ、スロベニア領海と公海との間の阻害されないアクセスを確保するために、スロベニア領海と公海を結ぶ接続海域を、クロアチア領海内に2.5海里の幅で設定した(図内: 緑色の点線)。同海域内では、全国籍の民間及び軍の船舶、航空機に対する交通の自由、海底ケーブル、パイプラインの敷設等の権利が付与された。



③接続海域内を通過する船舶及び航空機は、クロアチア当局による臨検、逮捕、身柄拘束、通行方向の変更、又は、その他の干渉の対象とならないものの、クロアチアは、国連海洋法に基づき一般的に受け入れられている国際基準を適用するために、クロアチア国籍ではない船舶及び航空機に適用される法律及び規則を採択する権利を有するとされた。

＜陸地の国境＞

- ①国境線の画定に際し、クロアチア側の主張を概ね受け入れ、土地台帳の記録を採用し、ドラゴニヤ川左岸の3集落はクロアチアに属する。
- ②スネジュニク山(Znežnik)東側斜面の70ヘクタールに上る森林はスロベニアに帰属する。
- ③ベラ・クライナ(Bela Krajina)地域のドラゲ村(Drage)村はスロベニアに帰属する。
- ④ゴリヤンチ丘陵地帯(Gorjanci)のトゥルディノフ山頂(Trdinov)に位置し、現在、スロベニアの管理下にある軍事施設については、通信タワーを除いて、クロアチアに帰属する。
- ⑤ポサヴィエ(Posavje)、オブレジェ(Obrezje)及び国境線が河川に沿っていないソトラ川(Sotla)川周辺地域も、土地台帳の記録に基づき、クロアチアに帰属する。
- ⑥ムラ川(Mura)周辺のブレゾヴェツ(Brezovec)及びムリシュチェ(Mur i šče)の2集落については、土地台帳の記録に基づきスロベニアに帰属する。



(出典:常設仲裁裁判所 PCA プレスリリース、当館作成資料より)

経済

【マクロ経済・統計】

●IMD競争ランキングで43位【1日】

5月31日、国際経営開発研究所(IMD)が発表した2017年IMD競争力ランキングで、スロベニアは、

本年の対象63か国中、昨年同様43位を記録した。昨年から2カ国(サウジアラビア及びキプロス)の追加があった中、スロベニアが昨年と同順位を確保したことにより、全体的にはランキングを上げたと捉えられる。なお、2017年の上位3位は、香港、スイス及びシンガポールであり、日本は、昨年同様26位。

●OECD、スロベニア成長予測を引上げ【7日】

OECDは、本年のスロベニアの経済成長率の予測を、前回の2.8%から3.8%へと大幅に引き上げた。経済成長の主な要因は、強力な労働市場による国内消費、特に耐久消費財の消費の増加とされる。また、今後EU構造基金(EU Structural Funds)の使用の加速化によって、資本形成も6.8%増加が見込まれる。しかしながら、OECDは、スロベニアの経済が上向きであり失業率も下がる一方、労働力の高齢化により特定の職業については国内の労働者が不足している点などが課題であると指摘した上で、結果として、2016年の新規雇用の4分の1は、外国人であったと報告している。

●S&P社、スロベニア国債格付けを引上げ【17日】

17日、S&P社は、国内消費及び好調な輸出の成長に支えられた堅調なGDP成長率を背景に、今後スロベニア政府の公的債務がGDP比80%を下回るとの予測のもと、スロベニア長期国債の格付けを「A」から「A+」に引き上げた。同社の発表によると、スロベニアの金融セクターも回復していると見られている。スロベニアの国債格付け見直しについては、政府による民営化等の取組の遅延及び国外の不安定要素を理由に「安定的」に据え置いた。

●自由化以降の燃料価格の推移【21日】

21日、IMAD(マクロ経済分析発展研究所)は、燃料価格が自由化された昨年4月から昨年12月までの燃料価格の推移分析を発表した。同分析によると、ガソリン代は、政府が設定した場合の想定価格より1.3%上回り、灯油代は、同想定価格を下回る結果となった。また、同時期に、小売業者によるガソリン売上げにかかる利益は約20%上昇した。さらに、大手3社の燃料小売企業を相互比較した際、ガソリン価格はほぼ同額であったのに対し、灯油は価格に比較的ばらつきがあったことから、灯油に関しては、自由化によって競争が増したものと分析している。

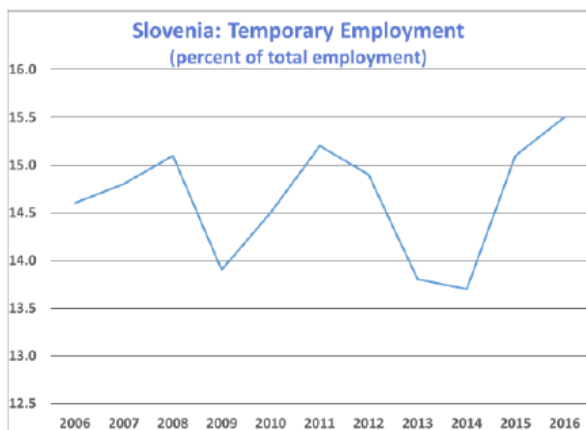
スロベニアに迫る！②

IMF年次報告：スロベニア労働市場の課題

スロベニアの労働市場の問題点は、無期限雇用によって手厚く労働者を保護する一方で、非正規雇用は過度に不安定であったことが指摘されていました。

これを受けて、2013年、政府は、労働市場改革に乗り出しました。その主要ポイントは、解雇手続きの簡素化、解雇時の通告期間の短縮、及び新規の無期限契約による雇用時の税負担軽減措置等の導入です。また、短期・臨時雇用契約に関する改革は、2年の臨時雇用期間後の無期限雇用への切替え、社会保障費の増額等が織り込まれました。

しかしながら、改革後の労働市場を分析すると、2014年の新規無期限雇用件数は約50%増加しましたが、2016年には約10%減少に転じています。他方、新規臨時雇用件数は、2014年に一旦減少したものの、2015年には再度増加傾向となり、結果として、2016年、最終的な臨時雇用件数の全雇用件数に占める割合は、過去10年で最高の15.5%を記録しました。

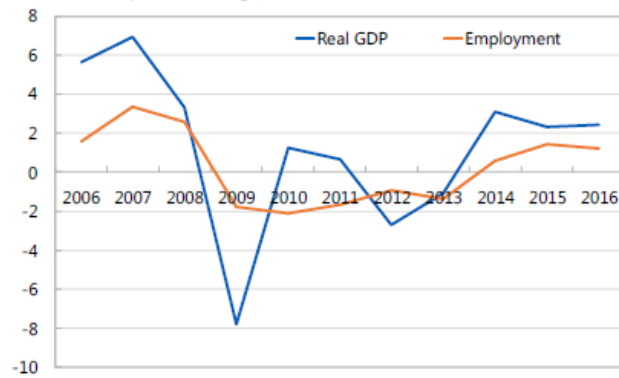


上記の結果から、2013年の改革は、金銭的なインセンティブにより短期的な効果はあったものの、長期的には雇用者にとって不利益な内容であったと考えられます。

さらに、GDP成長率と雇用の関係を分析すると、2013年以降、経済成長の早さに対して、雇用の増加率が低いことがわかります。

一つの要因としては、経済成長を牽引するセクターの労働集約性が低いことが挙げられます。他方、労働市場では、失業率を下げるために、以前と比較してより多くの求人が必要である傾向が見られ、労働市場におけるスキルのミスマッチが起きていることが示唆されました。

Output and Employment Growth
(Annual percent change)



Source: EUROSTAT.

(出典:IMF:対スロベニア4条協議レポート(2017年))

【金融・企業関係】

● スロベニアの食品産業、好調【6日】

6日に開催された第17回農業食品産業サミットにおいて、ジダン(Dejan Židan)農業大臣は、スロベニアの食品業は、製品開発において、ますます革新的な技術を取り入れており、また新しい市場開拓と利益増加を記録していると、その好調ぶりを強調した。現在、スロベニアには、約720社の食品企業が存在し、13,300人を雇用している。総売上高は、前年比0.3%減の20億ユーロ。スロベニアにおける価格は欧州の平均値の90.8%である。

● コペル港のクレーン倒壊【8日】

8日、コペル港のばら積み貨物ターミナルにおいて、強い嵐の影響で係留用ロープが切断され流された自動車運搬船がクレーンに衝突して倒壊し、施設に甚大な被害を与えた。人的被害は発生しなかったものの、地元紙「プリモルスケ・ノヴィツェ」によれば、損害額は2000万ユーロに上る。コペル港湾会社によれば、クレーンは26年前に製造されたもの。同埠頭には他に2つのクレーンがあるため、同埠頭のオペレーションには殆ど影響は出ない模様。

● 中国「TAM-Europe」社、工場敷地買収【12日】

マリボル市の中国資本の電気バス製造会社「TAM-Europe」社は、銀行資産管理会社(BAMC、Bank Asset Management Company)よりバス製造拠点の敷地を買取った旨発表した。買取り価格は600万ユーロと推計される。Brian Zhao 同社取締役代表は、同社が空港バスを中心に年間約100台を製造、来年の電気バスの生産開始等、今回の買取りは今後の生産拡大のために重要であると述べた。同社の親

会社である CHTC (China Hi-Tech Group Corporation)社は欧州、中東及び東南アジアに顧客ベースがあり、今後は中国進出も計画。同社の電気バスの試作品はドバイの空港2か所で運転中。

●コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設経費に関する法案をめぐる動き【8日～27日】

8日、政府は、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設計画に関し、同路線をトンネル部分も含め、全て複線とすることを決定した。インフラ省は、この変更による追加経費は1億ユーロ程度、建設費の総額は約10億ユーロと試算している。なお、既存の路線は、観光用列車の運行に活用される予定。

14日、コペル市議会は、同建設にかかる政府の改定計画を21対2の投票で採択し、さらに、同計画の履行停止を求める国民投票への支持を撤回した。

19日、サボ(Laszlo Szabo)ハンガリー外務副大臣は、ハンガリー政府が本計画に対して最大2億ユーロの資金提供を行う旨正式発表した。

23日、スロベニアを訪問中のブルツ運輸担当欧州委員は、同鉄道路線建設に向けた準備作業に対して、「Connecting Europe Facility」基金より、4400万ユーロの拠出を決定した旨発表した。

27日、本建設法案の履行に反対する市民団体のコヴァチッチ代表は、スロベニア国会に対し、住民投票実施を支持する約4万8000の署名を提出した。ブルグレス国会議長は、住民投票は恐らく9月に実施されるであろうとの考えを示した。

社会・文化・スポーツ

●スロベニア、世界で7番目に平和な国【1日】

1日、経済平和研究所(Institute for Economics and Peace、本部は豪州)が発表した第11回目の世界平和度指数ランキングで、スロベニアは前回より3つ順位を上げて、163か国中、第7位となった。なお、上位3位は、アイスランド(1位)、ニュージーランド(2位)及びポルトガル(3位)で、日本はアイルランドと並んで10位。同指数の順位付けは、治安状況、国内及び国際紛争の規模及び軍事化の度合いを測る23の指標によって決定される。

●子どもが住みやすい国ランキング1位【1日】

1日、国際NGOのセーブ・ザ・チルドレンが発表した「子ども時代が守られている国ランキング」で、スロベニアは、172か国中、ノルウェーと並んで1位を記録した。3位は、フィンランド、日本は16位となった。

同ランキングは、主に国連機関及び各国が公表するデータをもとに、5歳以下の死亡率、60か月未満の成長障害、初中等教育における就学率、児童労働、10代の結婚及び出産、紛争による子供の強制移住、子供の殺人率等を指標化したもの。

●カヤック女子団体戦で金メダル獲得【2日】

5月31日から6月4日にかけて、2017年欧州カヌーラローム選手権(2017 European Canoe Slalom Championships)がリュブリャナ市の北西部に位置するタツェン(Tacen)で開催され、カヤック女子団体戦でスロベニアチームが金メダルを獲得した。また、カヌー男子団体戦では1位のドイツに2.19秒差でスロベニアチームが2位入賞を果たした。同大会は2年に1度開催されており、2005年の大会もタツェンで行われ今回2度目の開催地となった。



(写真:Urška Kragelj /STA)

●テロ容疑による航空機の緊急着陸【10日】

10日、リュブリャナ発ロンドン行の航空機内において、乗客が「テロ」に関する会話をしていたため、乗員からの通報を受けた機長の判断で、夕刻、同航空機は、ケルン＝ボン空港に緊急着陸し、乗客151名全員が脱出用シューターを使用して緊急脱出を行った。「テロ」に関する会話をしていたとされる乗客3名は、ドイツ警察の取り調べを受けたが、過激派組織等への関与は認められず、釈放された。

●シュピラク選手、ツール・ド・スイス優勝【18日】

国際自転車競技連合の主催する UCI ワールドツアーの1つである第81回ツール・ド・スイス(Tour de Suisse)が10日から18日まで開催され、スイスの自転車ロードレースチーム「カチューシャ・アルペシン(Katusha Alpecin)」に所属するスロベニア人のシモン・シュピラク(Simon Špilak)選手が総合優勝を果たした。

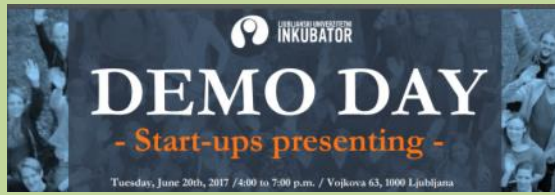
した。シュピラク選手は2015年の同大会においても総合優勝しており、今回は2度目の勝利となった。

●**トライコヴィッチ選手、テコンドー世界選手権ミドル級で銅【29日】**

韓国の茂朱(ムジュ)で開催されたテコンドー世界選手権にて、スロベニア人のイヴァン・トライコヴィッチ(Ivan Trajković)選手がミドル級で銅メダルを獲得した。トライコヴィッチ選手はこれまでも4年前のプエブラ(メキシコ)で開催された同大会ヘビー級で銅メダル、2012年の欧州選手権(イギリス、マンチェスター)にてヘビー級で銀メダルを獲得している。

発見！スロベニア 世界に通じるビジネス・インキュベーター

リュブリャナ大学インキュベーター (Ljubljana University Incubator, LUI) は、2004年に設立して以降、起業教育やメンタリング等を通じて145社の企業を支援してきました。その145社の内、80%が現在も企業活動をしており、40%が国外の市場に参入済み、合計約400名の雇用を創出しています。



LUI が輩出した企業の売上額は、2000～3000ユーロ規模から100万ユーロ規模まで様々ですが、成功している代表的な企業として、インホイール・モーター(車輪のハブ内に装備された電気モーター)を開発・製造する「Elaphe」社があります。その他、IT、マーケティング、医療機器等の分野で多くの企業が急成長しています。



必要能力を発見する機会を与えています。6月20日、デモンストレーション・デーが開催され、出展団体が各ブースにて自社製品・サービスを紹介し、来訪者との間で活発な意見交換が展開されました。テクノロジー、医療、マーケティング、教育、IT、食品等、多岐にわたる分野の32団体が出展。

LUI には、スロベニア国内の雇用創出に大きく貢献するまで成長した企業もあり、新しい観点で開発された製品やサービスの多くが商品化され、外国市場に参入済みで、スロベニア起業家の発想力及び商品開発・事業管理能力の高さが伺われました。(参考:リュブリャナ大学インキュベーターHP: <http://lui.si/welcome-to-lui/>)

一人の男性がVRゴーグルを装着して体験している様子。背景には他の参加者や展示物が見えます。



小さなワイン大国スロベニアのワイナリー紹介 第3回「ヴィナ・コペル (Vinakoper)」

沿岸部コペル市に位置する「ヴィナ・コペル (Vinakoper)」は、スロベニアでも最も歴史のあるワイナリーの一つです。1947年に、19世紀半ばよりスパークリング・ワインを製造していたフランスの「J. Champion & Cie. Vin de Champagne」社の敷地を受け継ぎ、ワイン製造を開始。



周辺地域で最古の貯蔵樽

570ヘクタールのブドウ畑を有し、固有種では白のマルヴァジア (Malvazija)、赤のレフォシュク (Refošk)、国際品種ではシャルドネ、イエロー・マスケット等の白、カベルネ・ソーヴィニヨン、メルロ等の赤を栽培しています。同社のブドウ畑は、標高の高い丘陵地帯から、アドリア海に突き出した半島まで、異なる微小気候、日照時間、土壌の10カ所に分散しているため、それぞれ独自のテロワールを活か



アドリア海に面したセチョヴリエ半島のブドウ園

し、多種多様なワインが製造できます。

「ヴィナ・コペル」のワインには、「Decanter World Wine Awards」や「Mundus Vini」等の国際コンクールでも数々の賞を受賞する高級・特別ビンテージラインのほか、国内消費向けの安価かつ高品質なテーブルワインもあり、地元住民との繋がりを大切にする同社の方針を反映しています。近年、対日輸出にも力を入れており、今年4月には東京でのワイン・食品見本市「ワイン&グルメ」に出展。多くの来場者が訪れ、ワイン輸入・レストラン関係者から高い評価を得ました。

お勧め: 赤の固有種のレフォシュクから作られる赤ワインは、適度な酸味とタンニンがバランス良く調和され、

しっかりとしたミネラル分を感じられます。かつてはフレッシュな状態で飲まれていましたが、近年ではバリック樽で熟成された「CAPO D'ISTRIA」も好評です。

Vinakoper d. o. o.

HP : www.vinakoper.si

Email : vinakoper@vinakoper.si

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282、Fax: +386-1-251-1822、Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当てて、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。4月号では熊本県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧ください。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【広報文化班からのお知らせ】

●日仏ベルギー合作映画「レッドタートル ある島の物語」の上映

日本のアニメ映画界を代表するスタジオ・ジブリが製作に加わった映画が、リュブリャナ城で開催される「FILM UNDER THE STARS」のオープニング作品として上映されます。

嵐で大海原に放り出されて無人島に漂着した男が辿る運命を描く映画です。全編台詞無。

○日時: 7月5日(水)午後21:30～ 上映時間80分

○場所: リュブリャナ城

○料金: 4.5 ユーロ

※チケットは、Kinodvor Box Office、リュブリャナ城、オンラインで販売しております。詳細はこちらから:

<http://www.kinodvor.org/en/get-togethers/film-under-the-stars/>

●和太鼓バンド GOCOO 公演

ブレッドで開催される第回オカリナ・フェスティバル(ブレッド文化協会主催)において、日本から和太鼓バンド GOCOO が出演することになりました。同バンドは今年で結成20周年を迎え、伝統楽器の和太鼓にこだわりのながらも、現代の感性に響くオリジナリティ溢れるサウンドを披露し続けています

○日時: 8月1日 午後20:30～

○場所: ブレッド湖畔(Promenade)

○入場料無料。詳細はウェブサイトにて: <http://www.festival-okarina.si/en/>

※この公演は、国際交流基金の海外派遣助成事業の一つです。

●「武士道」展

日本の「武士道」に迫る展示会。スロベニア国立博物館所蔵の甲冑や刀剣類に加え、普段見ることが出来ない個人コレクションの関連作品も展示されています。スロベニア国立博物館メテルコヴァ分館(住所: Maistrova ulica 1, 1000 Ljubljana)にて、11月5日(日)まで開催中。有料(第一日曜は無料)。

●ゴラズド・ヴィルハル写真展「日本の伝統にみられる精神の中で ～祭り～」

日本文化をテーマにした写真を撮り続けているゴラズド・ヴィルハル(Gorazd Vilhar)氏の写真展。日本の伝統的な精神を感じることができる「祭り」がテーマになっています。スロベニア民俗学博物館(住所: Metelkova ulica 2, 1000 Ljubljana)にて、9月8日(金)まで開催中。有料。

●NHK 連続テレビ小説「カーネーション」放映中

著名な日本のファッションデザイナーであるコシノ3姉妹の母親・小篠綾子氏の生涯を描いたドラマが、RTV スロベニアにて好評放映中。

○放映チャンネル:TV SLO 1(TV SLO 2 にて週末再放送あり。)

○放映日時:月曜～金曜 12:20～13:00(2話ずつ放映、全151話)

○テレビ番組表:<http://4d.rtvsllo.si/program> (スロベニア語)

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

たびレジには「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●すり被害が急増しています！

最近、リュブリャナ中心部にて、日本人観光客のすり被害が非常に多く発生しています。

被害場所が多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ鉄道駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、リュブリャナ以外では、ブレッド城でも被害の発生がありました。

貴重品は背負ったカバンには絶対に入れないようにし、何か異変を感じたらすぐに確認してください。